口腔ケアロボット
g.eNで
口腔ケア格差をなくす

障がい・介護・育児の現場から、
全人類の口腔健康支援へ

2015年（大学院時代）の研究開発から10年。
早稲田大学発のロボティクス研究成果を、
口腔ケアの社会実装へ。

株式会社Genics





手磨き



全自動

g.eN

口腔ケアは、
できる人だけの習慣であってはならない

口腔ケアは、毎日の健康維持に欠かせない行為です。

しかし、障がい、後遺症、加齢、認知・精神的負担、育児や介護環境により、十分に継続できない人がいます。

口腔ケアの質が身体状態や家庭環境に左右されることは、健康格差であり福祉課題です。



口腔ケアを、本人の努力や介助者の負担だけに依存させない仕組みが必要です。

従来の口腔ケアは、「手を動かせること」を前提にしている

身体的・認知的・精神的・家庭環境上の負担がある人にとって、毎日の歯みがきは大きな壁になる。

従来の口腔ケアに必要なこと

- 手で歯ブラシを持つ
- 口の中で細かく動かす
- 磨く場所を判断する
- 一定時間続ける
- 毎日繰り返す



だから、
従来の歯みがきは
多くの人にとって
継続が難しい

困難が生じる人・場面



障がい・後遺症



加齢・手指機能低下



認知・記憶の負担



うつ・気力低下



育児・家庭負担



仕上げ磨き・介助磨き

現場の声



知的障害のある
兄に使わせたい



うつで
毎日の歯みがきができない

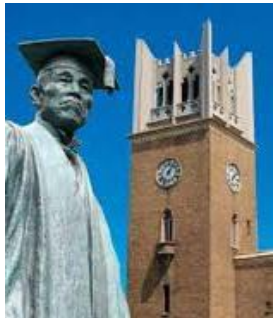


後遺症で磨いた場所を
記憶できない

歯みがきを本人の努力や介助者の負担だけに依存させない、新しい仕組みが必要です。

早稲田大学で10年の研究開発と検証を経て実用化、そして量産化を実現

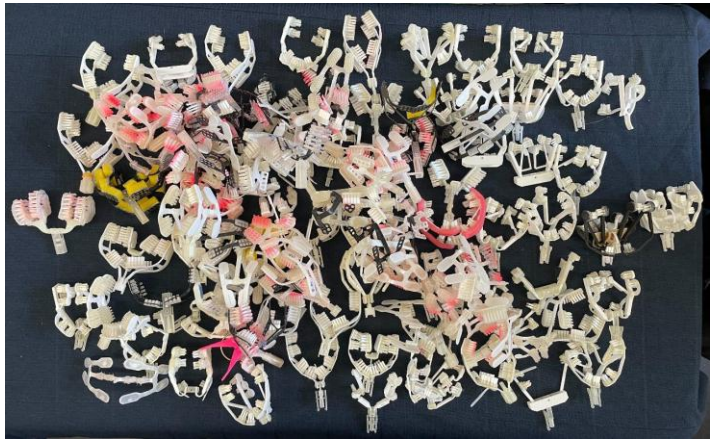
2015 研究室にてロボット歯ブラシ
アイデア発案・研究着手
原理開発・ビジネス仮説検証
2018 Genics 会社設立
2019 国際家電見本市「CES」出展
ロボット歯ブラシ g.eN を世界に向けて初披露
2020 継続的な試作・検証サイクルを実施 ～ 2023
2024 g.eN 介護向け限定モデル完成
テスト販売開始
歯科クリニック提携での販売
2025 子ども向けにも販路拡大
子ども向けブラシパーツ
口内刺激パーツ商品化
12 月 新モデル完成・量産化へ
クラウドファンディング開始



早稲田大学
WASEDA University



これまで開発した試作機



1万個以上のブラシを試作







様々な検証を繰り返し実施

2026年9月より通常販売開始予定

くわえるだけで、口腔ケアを続けやすくする

身体的負担・考える負担・介助負担を減らし、本人の自立を支える。

“世界初”

＊国内特許6511579号・7303124号取得
国際特許出願中



だから、
毎日の
口腔ケアを
続けやすい

g.eNの特徴

1. 手を動かさず使える
2. 最短1分の自動ブラッシング
3. 歯みがきと口内刺激に対応
4. 口の大きさや状態に合わせてアタッチメントを選択可能

軽減できる負担

身体的負担：
腕や手を細かく動かさなくてよい

考える負担：
磨く場所や時間配分を考え続けなくてよい

介助負担：
仕上げ磨き・介助磨きの負担軽減につながる



歯みがきを本人の努力や介助者の負担だけに依存させない、新しい口腔ケアの選択肢です。

工学×歯学×福祉で、口腔ケアを再設計する

ロボット工学・歯学的評価・福祉現場の課題理解を統合し、身体状態や介助環境に左右されにくい口腔ケアを目指す。

3つの専門領域の統合

工学
- ロボット制御
- 駆動機構
- 人体接触設計

歯学
- 歯列・ブラシ設計
- プラーク評価
- 清掃品質

福祉
- 障がい・高齢者支援
- 介助負担軽減
- 自立支援

知見の融合で
口腔ケアを再設計

g.eN



ロボティクスで実現する
新しい口腔ケアソリューション

「口腔衛生状態として良好」とされる評価基準を満たす

※日本ヘルスケア歯科学会(2022)

誰でも平均的に歯垢除去ができることが示唆された

※日本歯周病学会(2025)



誰もが何処でもいつでも、みんな均一に磨くことができる逸品です。
複数施設での g.eN による臨床研究も実施中です。

野杁 由一郎
新潟大学医歯学総合研究科
口腔健康科学講座う蝕学分野 教授

※試作機・限定条件での評価。今後も多様な対象者で追加検証を進めます。

研究と現場理解をつなぎ、誰もが続けやすい口腔ケアの実現を目指しています。

専用アタッチメントで、口内刺激を毎日のケアに

くわえるだけで、頬の内側などをやさしく刺激。歯みがきに加えて、口腔機能を意識した日々のケアに活用できます。

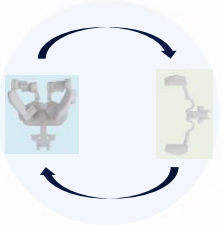


g.eN本体

口内刺激アタッチメント

Sサイズ／Mサイズ

交換式



付け替えて使える

ブラシアタッチメントと交換し、
1台の本体で歯みがきと口内刺激を
使い分けられます。



くわえるだけで使いやすい

手を大きく動かさず、自動動作による
口内刺激を日々のケアに
取り入れられます。



口腔内をやさしく刺激

頬の内側、唾液腺周辺、表情筋周辺
などへの刺激を、日常的な
セルフケアに取り入れます。



付け替えるだけ。1台で、歯みがき＋口内刺激。

※本製品は医療機器ではありません。疾病の診断、治療、予防を目的とするものではありません。

口内刺激が広げる、口腔ケアの選択肢

歯をきれいにするだけでなく、口腔機能を意識したセルフケアへ。



やさしい口内刺激

頬の内側や口腔周囲への刺激を、
日々のセルフケアに取り入れます。



唾液分泌をサポート

唾液腺周辺への刺激により、
使用中の唾液分泌をサポートします。



口腔機能を意識した習慣づくり

口内トレーニングや、口腔機能維持を意識したケアの継続を支えます。



子ども



歯みがきへの段階づくり

口に物を入れることへの慣れや、
お口を動かすきっかけづくりに。





高齢者・在宅ケア



口腔機能を意識した日常ケア

毎日の口腔ケアに、やさしい刺激という
新たな選択肢を加えます。



歯科・介護・福祉



専門職による支援の補助

歯科医師・歯科衛生士等の指導のもと、
口内トレーニングやセルフケアの継続を支えます。

歯みがきの自動化から、食べる・話す・笑うための口腔環境づくりへ。

福祉・家庭・歯科で広がる活用シーン

g.eNの受益者は、利用者本人にとどまらず、家族・介助者・医療福祉現場へ広がります。



小学生



中学生



高校生



筋ジストロフィー患者（20代）



社会人（30代）



ALS患者（40代）



MSA患者（60代）

(2024.10～2025.9)

介護向け数量限定モデル（1号機）

子どもから高齢者まで幅広い世代で活用

1号機（前バージョン）長期利用者の状況

※1号機は介助を必要とする方向けに販売し、
一部を歯科クリニック経由で一般成人にも試験販売

	**高齢者**（70代～80代） 臨床研究被験者含む	約50人
	**成人の障がい者**（19歳以上） ALS、筋ジストロフィー、ドライマウス、知的障害、多系統萎縮症、パーキンソン病、うつ病、強迫性障害	約15人
	**障がい特性のある子ども**（18歳以下） 自閉症、筋ジストロフィー、ダウン症、知的障害、発達性協調運動障害、グレーゾーン児	約20人
	**普通成人** 限定的に販売実施	約10人

利用者本人だけでなく、家族・介助者・現場全体の負担軽減につながります。

※使用者及び介助者の同意を得て掲載しています

導入事例｜口腔機能の維持増進の可能性

介護老人保健施設での高齢利用者への試行導入結果

試行の概要

対象
介護老人保健施設の入所者
（高齢者・要介助者）

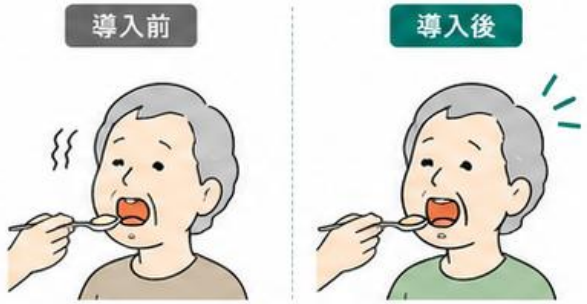
内容
全自動歯ブラシ g.eN を
日常の口腔ケアに導入

期間
短期間の試行導入

目的
口腔機能の維持・改善の可能性と
介護現場への有用性を検証

確認された主な変化

① 食事介助時の開口がスムーズに



口腔周囲の緊張がやわらぎ、食事介助時の開口がしやすくなった。

↑ 食事量・摂取の安定につながった

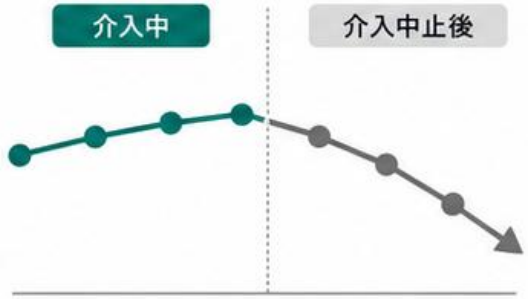
② 覚醒度・反応性の向上



ケア中の表情が明るくなり、声かけへの反応や活動性の向上が見られた。

↑ 日中の活動性向上が期待できる

③ 介入中止後に状態が低下



介入を中止したところ、開口や反応性などの状態が低下する傾向が見られた。

↓ 継続的なケアの重要性を示唆

g.eN の活用により、口腔機能の維持増進に寄与する可能性が示された

- 短時間で効率的な口腔ケアを実現
- 個人差のあるケアが安定して提供可能に
- 利用者の QOL 向上と誤嚥性肺炎リスク低減に期待
- 介護スタッフの負担軽減とケアの質向上に貢献

現場での実証を通じて、誰ひとり取り残さない介護の実現に向けた有力な選択肢であることが確認されました。

2025年12月～2026年2月　クラウドファンディングによる先行予約販売を実施

社会からの反応が示した、強い必要性

研究開発の成果は、2025年12月～2026年2月のクラウドファンディングで、
社会的な期待として可視化されました。



集まった金額

¥35,456,255

サポーター　1,223 人

709.13 %

目標は ¥5,000,000 に設定されています。
プロジェクトは 2025/12/02 に達成し、
2026/2/27 23時 59分に募集を終了しました。

フォローする 172

フォローするとどうなるの？

プロフィール

Genics　Genics

メディアでも大きな話題に！

日刊工業新聞　THE SANKEI SHIMBUN　FNNプライムオンライン　テレ東
WBS　あさチャン!　CAST　next クリエイターズ　8 ンテレ　フジテレビ
0テレ　INNOVATION WORLD　ミライヤー　朝日小学生新聞　TBS
東京新聞　ガラコリマンデー!!　テレビ大阪　角川アスキー総合研究所　TRENDY
J-WAVE 81.3FM　TimeOut TOKYO　あさイチ　東方通信社
この差って何ですか?　中日新聞　讀賣新聞　集英社　博士は今日も暇拓する
月刊コロンブス　NHK　EMIRA　MAQUIA　ITmedia NEWS
高齢者住宅新聞　宇都宮経済新聞　文化放送　IPBASE
一般社団法人 共同通信社　ABEMA　ABEMA Prime　ABS Asahi　ICT 教育ニュース ict-enews.net
歯科評論　MONOist　高田馬場経済新聞　ROBOT MEDIA　MIT Technology Review
村上信五くん 経済ワン　Fresh Faces -アタラシイヒト-　LINK-J　ニコニコニュース　NEWS PICKS

ユーザーの期待コメント（一般）

ユーザーの生の声が示す「潜在ニーズ」と「導入価値」

VOICE

歯磨きって何で手でやらないといけないのだろう。自動化されればいいのにと、毎日感じていました。

VOICE

歯ブラシの仕方や時間配分などを気にせず、勝手に全自動なのは画期的。**歯ブラシストレスフリーの毎日が楽しみ**です。

VOICE

磨くときに「考える」エネルギーをかけなくてすむのは、とても大きなメリットです。

VOICE

日々の歯磨きが億劫な私は、全自動歯ブラシの開発の話を聞いてから、一般販売される日を心待ちにしていました。

特に強いニーズを示すコメント

VOICE

私は普通のことが不得意で、課金して解決できるものは惜しまず選んで生活しています。**電動歯ブラシでさえ苦痛**で、同じ箇所だけ磨いてしまい、結局虫歯になっていました。このようなプロダクトが開発されることは非常に喜ばしいです。

VOICE

50肩で歯磨きが苦痛です。夢のような商品ですね。

ユーザーコメントから、“歯磨きが面倒・苦痛・難しい” という日常課題に対し、**g.eNが「負担軽減」「自立支援」「生活の質向上」をもたらす製品として期待**されていることが分かる。

単なる新規性ではなく、忙しい人・苦手意識のある人・身体的負担のある人に対する「具体的な解決策」として訴求可能。

ユーザーの期待コメント（子供/障がい/介護）

ユーザーの生の声が示す「潜在ニーズ」と「導入価値」

子供関連

VOICE
こどもが3人いて**育児でバタバタなので少しでも時短になったら嬉しい**です。届くのが楽しみです！

VOICE
子供も興味を持ち、歯磨きをキチンとしたいとの事で、参加させていただきます！

障がい・介護関連

VOICE
知的障害のある兄に使わせたくて購入します。家族みんなが、販売を心待ちににしていました。商品が早く届いてほしい！

VOICE
うつ患者です。毎日の歯磨きが出来ません。よほど調子の良い日か外出前に何とか頑張る程度です。これがブレークスルーになるなら、寿命が延びそうです。

特に強いニーズを示すコメント

VOICE
想像もしなかったプロダクトにおどきました。いつも子供の仕上げ磨きをしている親にとってはとっても素晴らしいプロダクトだと感じました。実家が歯医者ということもあり、ご活躍を心から応援しております。

VOICE
後遺症でどこの歯を磨いたか記憶できない主人のために子の製品が世に出るのを何年も待っていました。毎回仕上げ磨きをする私の負担も軽減されると本当に生活が楽になります。開発された皆様の努力に感謝します。

ユーザーコメントから、“**育児・障害・介護・メンタルヘルス**など幅広い課題に対して、
「**歯磨きの負担軽減**」**への強いニーズ**があることを示している。

クラウドファンディング後の市場反響

一般家庭・歯科・企業・介護医療の複数市場で、導入ニーズが顕在化



一般ユーザー

300名超

一般販売を望む問い合わせ

✓ 先行予約販売を準備中



歯科医院

30院以上

取扱い・導入に関する問い合わせ

✓ 専門職経由での展開可能性



企業福利厚生

3社

導入申し込み済

✓ 健康経営・福利厚生ニーズ



介護・医療現場

多数

介護施設・リハビリ病院等から問い合わせ

✓ 口腔ケア支援・介助負担軽減への期待

クラウドファンディング後も一過性ではなく、複数チャネルで実需が継続

g.eNは、一般家庭向け製品にとどまらず、歯科・企業・介護医療領域でも導入可能性が広がっている

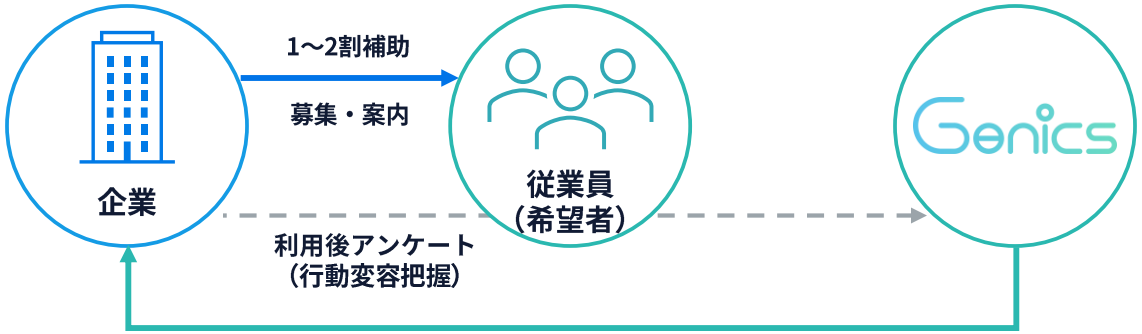
法人導入のパターン



共同購入型と実証型の２つの導入パターン

1 共同購入型

福利厚生・健康経営



- 企業補助で導入しやすい
- 従業員は安く購入できる
- 健康経営施策として活用しやすい

2 実証型

新規事業・サービス検証



- 新規サービス組み込み前の検証に活用
- 効果を計測しやすい
- 従業員の実利用データを取得できる

従業員が抱える背景課題

- 本人の口腔ケア
- 家族の介護・障害
- 子育て

業務外の疲弊

法人としてのメリット

- 課題把握だけで終わらず、解決策を提供できる
- 使用そのものが行動変容につながる
- アンケートで効果を測定しやすい
- 従業員のQOL向上が見えやすい

口腔機能 × 世帯波及 × 多業種連携：次世代予防基盤 実証プロジェクトの協業

日常の口腔ケア行動を「資産」に変え、パートナー各社と新たな健康価値を共創する

● 現状の課題と未取得データ

医療機関での受診データは存在するが、**「家庭内の口腔ケア行動」**は完全なブラックボックス。
全身疾患やQOLとの相関が期待されながらも、
産業活用が進んでいない未開拓領域です。

取得データの3層構造（例）

LAYER 01：行動ログ (DAILY)

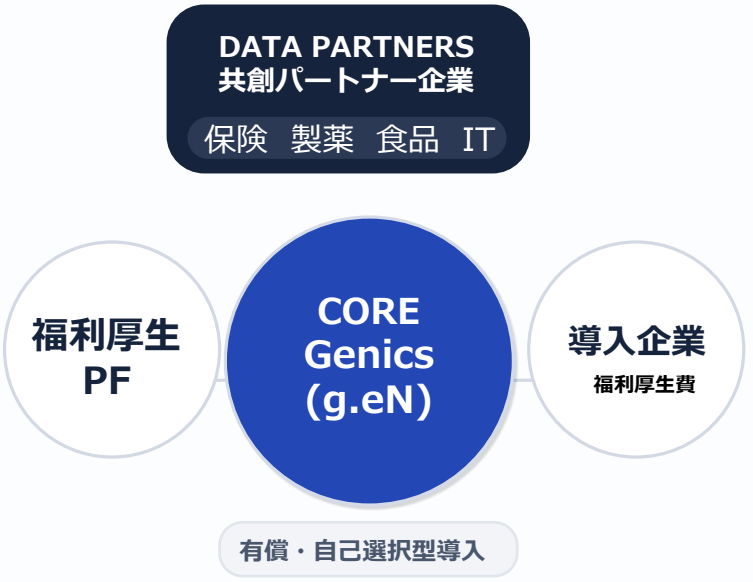
磨き癖　継続頻度　世帯内シェア

LAYER 02：口腔機能

咀嚼力　舌圧　清潔度　嚥下機能

LAYER 03：生活・医療連携

健診結果　医療費履歴　生活習慣



※実際の購買行動に基づくリアルワールドデータの取得

市場性・波及経路の検証

福利厚生費を活用した有償スキームにより、
「真の需要」を特定。
世帯内での利用拡張という伝播経路を解明し、
マーケティング戦略に活用します。

パートナー企業への提供価値

- **【保険】新商品・特約開発**
  口腔スコア連動型の健康増進型保険の構築
- **【製薬/食品】R&D・臨床エビデンス**
  口腔機能と全身疾患相関データの分析・活用
- **【IT/PF】QOL可視化エンジン**
  PHR/パーソナルヘルスレコードの質的向上

健康経営の次のテーマは「社員の家族」まで含めた生活支援

社員本人の健康だけでなく、子育て・介護・家族の健康不安を支えることが仕事パフォーマンスに直結する

従来の健康経営

社員本人の健康診断
運動習慣
メンタルヘルス
職場環境改善

これからの健康経営

社員の生活全体と、家族の課題まで支える

子育て世代

子どもの歯磨き・仕上げ磨き負担を軽減

介護世代

親・家族の口腔ケア支援に接続

忙しい社員

毎日のセルフケアを簡単に継続

家族への贈答

高齢の親への健康支援商材にもなる

インクルーシブな製品として様々な人に！

福祉の現場から、全人類の口腔健康支援へ

もっとも届きにくい人に届く仕組みは、やがて社会全体の基盤になる。

1
障がい・介護・
育児・高齢者支援

2
家庭・歯科・
福祉施設へ拡大

3

日常の
口腔ケア習慣化

4
データと知見の
蓄積・活用

5
すべての人の
口腔健康支援へ

2026年9月の通常販売開始はゴールではなく、口腔ケア格差解消に向けた**本格的な社会実装の出発点**です。

プラットフォームとしての今後の展開

- 口腔データインフラとして社会実装
- 誤嚥性肺炎・歯周病・フレイルの予防を日常の口腔ケアでサポート
- すべての人が、同じ品質で口腔健康を維持できる世界へ



ユーザー

メリット：
- 定期健診提供
- 日常のモニタリング可能
- 病気早期発見

健診・治療

利用者の口腔データ

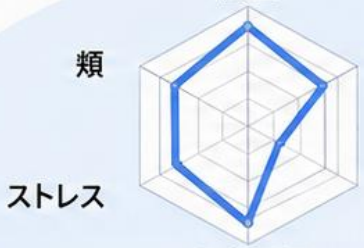
Genics Platform

口腔データの共有



病院・歯科クリニックなど

メリット：
- 定期健診による顧客の安定化
- 遠隔健診が可能 → 顧客増





唾液成分や口腔内データから健康状態を測定



全ての人が、
自分の口で美味しく食べ、
笑い、話し続けられる世界へ





g.eN

ロボットで、
口腔ケアの未来をつくる。

ものづくり　ヘルスケア　介護　世界展開

研究成果を社会に届ける途中にいる会社

日本発のロボティクス製品として、世界中の口腔ケア習慣を変えることに挑戦したい